



日本国を建てるもの

信仰・教育・公共性

梅津順一 著

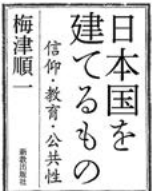
(うめつ・じゅんいち氏は青山学院院長・キリスト教学校教育同盟理事長)

◆四六判・並製・360頁・本体2800円

信仰なき市民社会への挑戦

国家を超える視座を持ち、世界の平和に貢献することこそ「日本国」を建てる天職ではないか——明治の宣教師や思想家たちの熱き思いに学び、キリスト教大学設立の理念をたどりながら、キリスト教学校と教会に求められる伝道と人間形成の使命を探る。

著者はピューリタニズム研究の第一人者であり、長年キリスト教教育に従事してきた。信仰と社会科学の二つの足場から、信仰の私事化を批判し、日本の将来の精神的基軸を構想する力作。



【目次】より

- I 明治日本とキリスト教
 - 第1章 マクレイ博士の中国伝道——日本上陸以前
 - 第2章 本多庸一と明治日本
 - 第3章 「平民道徳」とキリスト教——徳富蘇峰の福澤諭吉批判
 - 第4章 日本国を建てるもの——「内村鑑三不敬事件」再考
- II 日米のキリスト教大学
 - 第5章 アメリカのキリスト教大学と世俗化
 - 第6章 日本のキリスト教大学
 - 第7章 戦後史のなかのリベラル・アーツ・カレッジ
 - 第8章 戦後七〇年、日本のキリスト教大学はどこへ行く
- III 信仰なき市民社会への挑戦
 - 第9章 体験的日本伝道論——信徒として、一社会学者として
 - 第10章 神学なき社会科学、信仰なき市民社会——近代日本への一視点

新規オンデマンド化
〔8月25日〕

基督教の起源

山谷省吾著／解題Ⅱ荒井献

戦後、邦人の手によってまとめられた初期キリスト教史研究の画期となった古典。堅実で厳密な学問的態度と信仰的立場とがみごとに融合した名著。

上下2巻を合本化し、オンデマンドブックとして復刊。

◆A5判・並製・740頁・本体6800円

オンデマンド化準備中
〔9月予定〕

新約聖書解題

山谷省吾著／解題Ⅱ中野実

山谷省吾（やまや・せい）

1989年岡山県に生まれる。東京帝大卒業後、内務省勤務を経て第四高等学校、第三高等学校教授を務めた後、31年、室町教会牧師、46年、信濃町教会牧師、51年、口語訳聖書専任委員、55年、東京神学大学教授、66年、東北学院大学教授を歴任。また駒沢教会、豊島岡教会牧師も兼ねた。著書は『パウロの神学』、『パウロ書簡・私訳と解釈』全5巻など多数。82年逝去。

新教出版社のオンデマンドブックから

- | | | |
|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 「十字架の神学」の成立 青野太潮
5000円 | キリスト教神学概論 佐藤敏夫
5000円 | 信徒の神学 H.クレーマー
3200円 |
| 新約思想の成立 八木誠一
5300円 | アガペーとエロース ニーグレン
1=3400円、2=4100円、
3=4400円 | キリスト論要綱 W.バネンベルク
6900円 |
| 共観福音書伝承史 ブルトマン
I=5200円、II=3500円 | ヘブライ人とギリシヤ人の思惟
ボーマン 5800円 | 熊野義孝全集7.8(教義学)上
=8100円、下=6900円 |
| 初期キリスト教の思想的軌跡
ロビンソン/ケスター
4000円 | 教会史綱要 シューベルト
5200円 | 宗教改革の神学 北森嘉蔵
4400円 |
| イエスの譬え エレミアス
3000円 | 古代キリスト教思想家 カンペンハウゼン 3500円 | カルヴァン新約聖書注解 |
| パウロをどうとらえるか 荒井
献編 4000円 | 日本キリスト教史論 石原 謙
5200円 | 1 共観福音書上 5700円 |
| 新約聖書の諸問題 佐竹明
3900円 | 特高資料による戦時下のキリスト教運動 同志社人文研編
I、II、III=8900円 | 3 ヨハネ福音書上 3900円 |
| ペテロ クルマン 5000円 | 内村鑑三不敬事件 小沢三郎
4000円 | 4 ヨハネ福音書下 4000円 |
| イエスの復活とその使信 レオン=デュフル 4800円 | 希望の神学 モルトマン 6400円 | 5 使徒行伝上 4700円 |
| 新約聖書における教会像 E.シ
ュヴァイツァー 4600円 | 十字架につけられた神 モルト
マン 5800円 | 6 使徒行伝下 4400円 |
| 時の中心 コンツェルマン
5200円 | 聖霊の力における教会 モルト
マン 5200円 | 7 ローマ書 4900円 |
| 土着と背教 武田清子 5400円 | 教会論・上下 キュンク 上=
6200円、下=5500円 | 8 コリント前書 4700円 |
| 近代の神学 佐藤敏夫 4000円 | | 9 コリント後書 3200円 |
| 救済の神学 佐藤敏夫 5000円 | | 10 ガラテヤ・エペソ書 3600円 |
| | | 11 ビリビ・コロサイ・テサロ
ニケ書 3800円 |
| | | 13 ヘブル・ヤコブ書 3800円 |
| | | 14 ペテロ・ユダ書・ヨハネ
書簡 4000円 |

ベルトールト・クラツパート著／武田武長ほか訳 ソクラテスの死とキリストの死

現代において「バルトールボン・フアーの線」を神学的に追求し続けている著者の表題の論考をはじめ、ユダヤ教・イスラーム・キリスト教の宗教間対話、三一論、洗礼論、またカルヴァンと旧約聖書など興味尽きない論考と説教8編を収録。著者9月来日。◆四六判・予価2500円

ヴィクター・フランクル著／赤坂桃子訳

ロゴセラピーのエッセンス 18の基本概念

ロゴセラピーを分かりやすく解説してほしいというアメリカ人読者の要望に応えてフランクル自身が『夜と霧』英語版に付した貴重な紹介論文。初の邦訳。また日本でロゴセラピーを実践する精神科医と臨床心理士による2つの解説を付す。牧会者必携。◆小B6判・予価1600円

ヴィクター・フアーニツシユ著／焼山満里子訳

第一コリント書の神学

パウロ研究の第一人者が、「パウロの神学」を安易に語ることを戒めつつ、伝道者・「使徒」として走り抜いた彼の、第一コリント書に込めた独自の目標・特徴を手堅く綿密に検討する。◆四六判・予価3500円

ユルゲン・モルトマン著／福嶋揚訳

希望の倫理

64年に『希望の神学』で衝撃的デビューを果たした著者が46年後に、これまでの神学的営為の総決算とも言うべき書を書き上げた。いま真の希望のありかを指し示す21世紀の倫理。◆四六判・予価4500円

●7月に出た本

権利論

レフト・リバタリアニズム宣言

ヒレル・スタイナー著／浅野幸治訳

分析的政治哲学の一つの頂点

森村進（二橋大学教授）



ヒレル・スタイナーの『権利論』は分析的政治哲学の一つの頂点であり、レフト・リバタリアニズムを代表する著作である。率直で少しもごまかしのない明快な文体、入念な概念分析、緻密な議論、創造力あふれる思考実験、論理の導く所どこまでも行こうとする知的誠実性、しばしば常識に反する大胆な結論、忘れられた、あるいは知られざる古典的著作の再発見——これらの特徴のどの一つをとっても、『権利論』は模範を示している。◆A5判・本体5000円

福音と世界

◆税込635円

8月号―特集 憲法9条は有効だ

非武装市民防衛の思想

寄稿者・宮田光雄、大島美穂、三石善吉、河見誠、比企敦子、ユルゲン・モルトマン、福嶋揚、星野博美、金必順、高橋優子、内田樹、佐藤優、月本昭男、辻学、秋葉睦子、一色哲、ほか

● 学術出版の老舗として知られる創文社が売上不振のため2020年をめぐりに廃業を決定したと7月20日の朝日新聞が伝えました。同社は1951年の創業、マックス・ウェーバーの「経済と社会」や『ハイデッガー全集』（どちらも未完）、トマス・アクィナスの『神学大全』など古典の翻訳、また人文・社会科学系の優れた研究書を数多く出版してきました。キリスト教関係の書籍もたくさんあります（編集子にとつては浅野順一先生や宮田光雄先生の著作集が大切です）。教界の読書人で同社の本のお世話にならなかつた人はいないでしょう。既に関係者には通知され、ネット上でも噂になっていましたが、こうして報道されると改めて衝撃を禁じ得ません。傍目には麹町の一等地に良いビルを有し、テナント収入で専門書出版に集中できるのを羨ましいと思っていました。実情は遥かに厳しいものがあつたようです。

● 同社は売上減の原因として「日本経済の長引く停滞」のほか、大学予算縮小に伴う大学図書館への販売の低迷、学術論文・博士論文の電子化・オンライン化を挙げており、その結果「紙媒

体専門の学術図書館専門出版社」に大きな打撃を与えたとしています。確かに最近、大学という制度内において人文思想系学問をめぐる環境は厳しさを増しています。安倍政権が露骨に国立大学の文系学部廃止を進めようとしているのはその最たる現れです。しかし他方、大型書店の思想系の書棚の前に立つと、「教授の学位論文」とは異なる形で提供される人文知・社会科学知の熱気、またそれに対する読書界の期待を感じます。大学図書館以外のマーケットとそこに専門書を伝達するチャンネルもかろうじて健在です。ピケティの大ヒットは記憶に新しいところではないでしょうか。学知の果実をいかに収穫し、どのように伝えるかが問われているのだと思います。キリスト教の神学書は遥かに厳しい状況に立たされていますが、それでもまだ諦めるには早いと、創文社廃業決定の報に接して、むしろ自分に活を入れました。

● 同社からいわば巣立っていったような知泉書館が、もつと悪条件で15年間健闘してきているのを見るにつけ、まだやりようがあるのではないかと、残念な気持ちでいっぱいです。

福音と世界

2016年

9

特集・聖書と老い

老いと病 渡辺信夫
 神の賜物としての老い 櫻井重宣
 小さな歩幅で 小塩トシ子
 —— 老いの日の聖書 小塩トシ子
 超高齢社会を先導するキリスト教界 川又俊則
 —— 老年期牧師を中心に 原慶子
 「老い」と「病」におけるスピリチュアリティ 原慶子

「受けるより与えるほうが幸いである」はイエスの言葉か 荒井 献
 揺れる合同メソジスト教会 小海 光

書評「新約聖書解釈の手引き」 小林昭博
 【連載】

- ◆ 新約釈義 第一テモテ書 7 辻 学
- ◆ 聖書素読 9 金 必順
- ◆ リレーエッセイ・聖書とわたし 9 宮下規久朗
- ◆ カナダ教会通信 11 木原葉子
- ◆ レヴィナスの時間論 18 内田 樹
- ◆ 現代日本の福音 23 高橋優子
- ◆ 南島キリスト教史入門 23 一色 哲
- ◆ ことばの履歴書 29 佐藤 優
- ◆ 詩篇の思想と信仰 138 月本昭男